熊本保健科学大学
週刊 NEWSLETTER
2023.7.7
第 201号
発行 入試・広報課

理事長室から

木下 統晴

30年ぶりの台湾訪問

明治製菓時代に米国への新薬登録プロジェクトで、共に励んだ25年来の友人Chang博士（台湾系アメリカ人）のお誘いを受け、５月21～25日、当時明治で同僚だった森克彦さんご夫婦、私ども夫婦で台湾にでかけました。

30年ぶり３度目の台湾です。今回は、台北駅の傍らのホテルを拠点として、精力的に回りました。標高2031㍍の拉々(ララ)山では、沢山の紅檜の巨木を見ることができます。写真は、檜の道管を流れる水の音を私の女房が聞いているところですが、これを女房の友達にLINEで送ったところ「キノちゃん何で挟まっているの」との返信でした。ネットで調べると、水の流れる音ではなく、風や枝が揺れる音がサーッと聞こえるのだそうです。

この写真にある看板のように、台湾では幹回りを胸囲と言うのですね。この木は、樹齢1178年、樹高45㍍、胸囲7.55㍍です。ここでは大きな巨木（神木）を22本見ることができます。工事中のところを除き、殆どの巨木を見てきました。

５月末は丁度、今の熊本と似たような梅雨の季節です。幸い雨には殆ど降られず、23℃位の気温で、あまり暑くは感じませんでした。定番の九份、十分、故宮博物院、鼎泰豊、寧夏夜市、北投温泉博物館と温泉、青田七六博士の旧居などを巡ってきました。

熊本に来て７年間、ずっと走り続けでしたので、Dr. Changのご厚意による台湾旅行は、久しぶりで一生忘れられない思い出となりました。不在中にお世話になった竹屋先生はじめ皆さんに感謝申し上げます。

「きれいなキャンパス 交流楽しみ」

韓国・大邱保健大から交換研修生

韓国・大邱保健大学からの交換研修生８人（いずれ２年次生）が３日（月）、本学入りし、ウェルカムパーティーでスタッフと交流を深めました。あいにくの大雨で全学休講となったため、学生スタッフ不在の寂しい歓迎となりましたが、研修生たちは11日（火）までの研修プログラムに期待感をにじませていました。

パーティーは南部雅美・国際交流委員長の司会で開幕。竹屋元裕学長が「研修期間を通じ、本学の学生やスタッフと友情をはぐくんでほしい」とスピーチしました。引き続き、研修生一人一人が前に出て簡単な自己紹介。日本語で語り掛ける研修生もいて、会場を和ませていました。

来日するのは３度目というジュ・チョンヘさん（看護学科）は「キャンパスはきれいで大きいし、先生方は情熱的」と印象を語った後、「韓国でも問題化している高齢化に、日本がどのように対応しているのか知りたい」と、抱負を口にしました。

同大学からは４日、交換研修生とは別に医学検査学科の学生と引率教員計20人が来熊し、KMバイオロジクスや熊本機能病院などを視察。本学にも立ち寄り、大学院生の学術発表を見学した後、南部教授による特別講義を受けました。（NL編集部）

パーティーで本学スタッフと歓談する交換研修生たち

医学検査学科の南部雅美教授が、臨床検査や衛生領域で長年功績があった技師に贈られる「福見秀雄賞」を受賞しました。受賞を機に、南部教授に喜びをつづっていただきました。

＜寄稿＞「第42回福見秀雄賞」を受賞して　　南部 雅美教授（医学検査学科）

誇らしい先輩方の栄誉の積み重ね

去る６月９日に東京會舘にて公益財団法人黒住医学研究振興財団の「第42回福見秀雄賞」を受賞いたしました。本賞は 、臨床検査や衛生領域で指導的な役割を果たし、技術の開発・向上や人材育成等で指導的な役割を果たしてきた実務者（技師）に毎年贈られる栄誉ある賞です。

昨年の11月にアメリカのメリーランド州ボルチモアで開催された第21回国際細胞学会にてThe International Academy of Cytology（IAC）のThe International Cytotechnologist of the Year Award 2020を受賞して間もない約半年後の受賞ということもあり、栄誉ある賞を立て続けに頂き感無量です。

この「福見秀雄賞」は、過去に本学からは第27回（2008年）に廣瀬英治先生、第36回（2017年）に池田勝義先生が受賞されていますので私が３人目となります。この公益財団法人黒住医学研究振興財団による表彰には、今回、私が受賞した「福見秀雄賞」以外に、「小島三郎記念技術賞」と「小島三郎記念文化賞」があります。本学からは、杉内博幸先生が第33回(1998年)に、そして松原朱實先生が第45回(2010年)に「小島三郎記念技術賞」を受賞されています。教員に受賞者が５名もいる単科大学は極めて稀であり、先輩方の栄誉の礎の賜物と改めて熊本保健科学大学を誇らしく感じました。

贈呈式会場で書状を手にする南部教授

アカデミックスキル支援センター

レポート

オープンキャンパスに向けPR動画

学生広報スタッフ

和気あいあいとした雰囲気の中で撮影する学生広報スタッフのメンバーたち

学生広報スタッフ動画班が、今月16日（日）に開催されるオープンキャンパスへの高校生の参加を呼び掛ける動画づくりに入っています。６月29日（木）には、正門と２号館裏で撮影を行いました。

この日撮影に参加したのは、いずれも１年次生で、永田紗彩さん（医学検査学科）、徳山夕夏さん（同）、緒方光陽さん（理学療法学専攻）、今村百花さん（言語聴覚学専攻）、福原歩花さん（同）の５人。このうち、高校の頃から写真を撮るのが好きだったという今村さんは、動画の撮影は自己流ですが、TikTokなどを分析し「見る側に臨場感が伝わるような動画を撮影したい」と意気込んでいます。今回の動画でも「ジャンプやダッシュなどを採用し、短時間でインパクトのある動画を撮影したい」と語っていました。

スタッフは今回、動画の冒頭と最後のシーンを撮影。メイン部分は過去のオープンキャンパスの写真を組み合わせ、テロップや音声を入れる予定です。オープンキャンパス前の完成を目標に医学検査、看護、PT、OT、STそれぞれ１分30秒ずつの動画を制作し、SNSを使って配信する予定です。（入試・広報課）

子育てイベント関係者と、ボランティアを務めた助産別科の学生たち

助産別科

子育てイベントに参加 お母さんの大変さ実感

子育てネットワーク「縁側moyai」が主催する「おいでよmoyaiフェスタ2023」が６月３（土）、４日（日）にフラットスクエア（熊本市中央区上水前寺）で開催され、助産別科の学生13人も運営ボランティアとしてイベントを支えました。

同フェスタは、「ひとりで頑張りすぎず、みんなで楽しく子育て♪」を合言葉に、子育てに関するさまざまなコーナーやブースが開設されるもので、今回が３回目の開催です。本学学生たちは初日に参加、来場者や運営スタッフの子ども約70人を預かり、施設内のキッズスペースで一緒に遊ぶなどして見守りました。活動を通じ、お母さんたちとも実際に話すことができ、子育ての大変さを学びました。（助産別科・小山萌々子）

魅力のキャンパスライフ 学生が語る

高校進路指導者向け進学説明会

県内高校の進路指導者に向けた本学の進学説明会が６月21日（水）50周年記念館であり、45高校の54人に向けて説明がありました。

第１部では、竹屋元裕学長による本学の概要紹介に続き、入試委員長を務める竹永和典教授が令和６年度入試について詳しく説明しました。

第２部では３人の学部、大学院生が壇上に立ち、学生生活・ボランティア、実習・就職、教育環境の視点からキャンパスライフを語ってもらいました。このうち、リハビリテーション学科言語聴覚学専攻４年の清家佳歩さんは、言語聴覚士を目指したきっかけや大学４年間の流れについて話してくれた後、Lovers～難病患者・家族を支える会～といったサークル活動についても触れ、大学や言語聴覚士の魅力を存分に語りました。

また、看護学科４年の清水結友さんは、自身の臨地実習や就職活動の経験を披露。大学院２年の荒尾ほほみさんは、「体外式膜型人工肺（ECMO）」を対象にした自身の研究や思い描いている将来の進路などについても語りました。（入試・広報課）

臨地実習や就職活動の経験を語る清水さん

銀杏アラカルト

■熊本西高ＰＴＡが来学　熊本西高校のPTA約50人が６月27日（火）来学し、学内見学や同高校を卒業した学生の説明を聞くなどし、本学への理解を深めました。一行は、入試・広報課職員の案内で図書館エリアなど学内を見学しました。引き続き、同校卒業生で言語聴覚学専攻１年の寺井愛咲花さん＝**写真**＝が「大学生活について」と題して、言語聴覚士や本学を目指したきっかけ、学外活動などについてスライドを使って説明。全員が熱心に耳を傾けていました。（入試・広報課）

今週の１枚

短冊に願いを込めて

７月７日は七夕。学生たちが自由に願い事を書きこんだ七夕飾りが、学友会メンバーの手で今年も学内３カ所にお目見えしました。「単位ください」「イケメンと出会えますように」「再試回避」…。切実だけどユーモラスな願い事の数々に、思わず見入ってしまいました。（ＮＬ編集部）